

## Special Interview

Funky & Sexyな  
大注目の日本人女性ベーシスト！

# 芹田ジュナ 【Juna Serita】

2020年より単身渡米し、現在フロリダを拠点に活動中の女性ベーシスト、芹田ジュナ。17歳でベースを始め、昭和音楽大学に入学し、櫻井哲夫氏にベースを師事。2019年にソロEP『The Princess of Funk』、2021年にインストアルバム『Battle Field』をリリース。

この夏には日本初となる本格ガールズフュージョンバンド＝“Muses”も始動し、10月19日に1stアルバム『Muses』をリリース予定だ。ベーシストとして、Web Rock Magazine BEEASTによる次世代女性ミュージシャンNo1を決める投票式のコンテスト「俺の女神」にてベーシスト部門1位を獲得。

また、Sadowsky社のスラップに特化されたベース“SLAP MASTER”のエンドーサーでもある。今後グローバルに活躍する大注目の日本人女性ベーシスト、芹田ジュナのスペシャルインタビュー！

【2022.8取材・文：加瀬正之】

♪ 2020年に単身渡米後、フロリダを拠点にされているそうですが、現在の活動について聞かせて下さい。

自分名義のソロ活動と並行して、毎週末のゴスペルチャーチでの演奏、他アーティストのバック演奏などなんでもやっています。インド音楽のバンドでキューバのフェスに出演したり、最近だと、映画「Elvis」で“Tutti Frutti”を歌ってるLes Greeneとのクルーズ演奏の仕事でノルウェー、イギリス、デンマーク、バハマなど、他にもいろいろ行きました。外での演奏の仕事はもちろんです。できるだけ一人でできることを増やそうと思ひ、ベース以外の楽器にも積極的に挑戦し、経過をYouTubeにアップしたりもしています。

インターネットでルームメイトを募集していた家のオーナーがたまたま音楽関係者（グラミーを受賞している某

ヒップホップエンジニア。個人情報なので一応名前は伏せます。）だったので、私がエレドラを手に入れた時も快くリビングに置かせてくれたり、次の日にはドラムの周りにキーボード、ミキサー、スピーカーまで置かれていたり（笑）、とても恵まれていたと思います。

♪ 渡米した経緯や決意を聞かせて下さい。

私は元々思いが込められた歌詞を重視したJ-pop、またはメタル、ハードロック、パンクなど、激しい音楽が大好きだったのですが、ベースを始めてからはやはりどうしても耳がベースにむかっていくようになってしまい、そうなると音楽の趣味も変わってきて、ジャンルで言うならファンクやR&B、音で言うならキレのいいスラップやコロコロ転がるようなベースラインが大好きになりました。私が好きになったバンドがだいたいアメリカ発だったの

で、私もいつかアメリカを拠点に活動してみたいと思い、日本にいる間はそれを目標にセルフプロデュースしてきました。

まず英語は大学を卒業するまで勉強したことがなかったため、フィリピンに3ヶ月留学に行き、十分ではありませんが、コミュニケーションは取れる程度になりました。そして、日本にいるうちからも個人で短期でアメリカに行った際は、現地のラジオ出演・生演奏したり、そこから海外案件の仕事も増えていたため、私にとっては“決意”と言うほど大袈裟なものではなく、少し長い旅行に行くような感覚で行きました。

♪ 2021年にアルバム『Battle Field』をリリースされましたね。「Childhood」等も大好きなナンバーですが、この作品のコンセプトとメッセージをお願いします。

このアルバムは私にとって初めてのインストゥルメンタルアルバムとなっています。これまでは歌もののみをリリースしてきましたが、アメリカに拠点を移し、言葉の壁を感じなきゃいけない場面、アジア人ということで少し嫌な目にあったことも多々ありました。そのため言葉の壁がないインストのアルバムを出そうと思い、スタジオには入らずに世界中のミュージシャンとリモートのみで作りました。

そして、曲が出揃った今、やっと自分は戦う準備が整った、今スタートラインに立った、そんな気持ちがかもった1枚となっています。タイトル曲の「Battle Field」は私の大好きなギタリスト Jack Gardiner のギターをフィーチャーしています。ちなみに Battle と Field の間のスペースは、ただ単に間違えました(笑)。今時間を戻せるなら、アルバムタイトルは恐らく『Battlefield』になっていると思いますが、別に後悔はしていません。

♪ つい先頃、日本初となる本格ガールズフュージョンバンド＝「Muses (ミューゼス)」も始動され、10月19日に1stアルバム『Muses』がリリースされますが、このバンドについて聞かせて下さい。

このバンドは元々ギタリストの Ria a.k.a. Suzaku とそのサポートメンバーとして、よく一緒に演奏していましたが、“サポート”というには違和感があるほど、毎曲のように全員のソロがあったり、いつも鍛えられる現場でした(笑)。そのため今回こうしてお互いを刺激し合い、メンバーで切磋琢磨できるバンドを組んだこと、本当に嬉しく思います。一体どんなバンドになっていくのか、これからがとても楽しみです。

♪ Junaさんの音楽との出会いとベースとの出会いについて聞かせて下さい。

私が最初に始めた楽器はエレキギターでした。ギターボーカリストになりたかったのですが、ギターソロが全然上手く弾けなくて、自分には才能が無いと気がつき諦めました。ただある時、対バンしたバンドのベーシストがとても上手で、すごく簡単そうにバキバキスラップをしてい



たので、私も試しにベースを弾いてみたら、本当に簡単だったのでベーシストになりました。

♪ 石川県内灘町の出身だそうです。幼い頃はどのようなお子さんだったのですか？

メガネをかけていたのでメガネザルと呼ばれていました。色々なことに興味を示してなんでも挑戦したがるのですが、結構内気な性格でした。一応喋れますけど、慣れない人と一緒にいるのがいつも疲れてしまって、ただスポーツをしている時だけは人とコミュニケーションを取れたので、スポーツが大好きでした。習い事も周りとうまく溶け込めなかったため、お弁当を食べるときが少し憂鬱でした。

♪ 10代の頃に憧れていたベーシストを3人挙げて頂けますか？ また、それぞれどこに惹かれたのですか？

フリー (Flea) : ベースを始めてからすぐにコピーしたのがレッチリの「Stone Cold Bush」でした。難しそうに聞こえる割にはオクターブがメインだったので、意外と簡単なのに最高にかっこいい！

マーカス・ミラー (Marcus Miller) : 最初に聴いたのが「Power」という曲でした。ベースがメインの曲を今まで聴いたことが多分なかったので衝撃を受けました。

ロッコ・プレステア (Rocco Prestia) : 彼のポコポコしたベースを聴いて、いかに指弾きのトーンコントロールが大切かを学びました。



♪ 影響を受けた大好きなアルバムを3枚挙げて下さい。 ♪ 注目している女性ベーシストはいますか？

『ベスト オブ ゴー！ ゴー！』 (GO!GO!7188)  
『Black Messiah』 (D' Angelo)  
『A Different Place』 (Kim Burrell)

イダ・ニールセン (Ida Nielsen)  
タル・ウィルケンフェルド (Tal Wilkenfeld)  
大好きな女性ベーシストです。

♪ SLAP MASTER のエンドーサーでいらっしゃいますか、愛用のベースについて聞かせて下さい。

♪ Juna さんにとって“JAZZ”とはどのような音楽、どのような存在ですか？

SLAP MASTER は、まさに名前の通りスラップのために作られたベースです。私のアルバムでスラップがある曲は全て SLAP MASTER で弾いています。弱い力でも良い音が出るので、コントロールさえできれば最高に使い勝手が良いです。

音楽を通り越して言語だと思っています。演奏ではなく、あくまでも会話。ゆえに数あるジャンルの中で一番コミュニケーション能力が求められる音楽だと思っています。常に周りの音を聴きリアクションする、ジャズでなくてもジャムバンドであれば、これは必須だと思いますが、ジャズミュージシャンと演奏するとやはり反応の速さを感じます。

♪ アップライトベースも弾かれているようですが、今後ライブやレコーディングで使用する機会はありますか？

♪ 今年の年末にアメリカでレコーディングしたインストリアルアルバムをリリース予定とのことですが、言える範囲でどのような作品になるか聞かせて頂けますか？

1台しか持っておらず、それも実家に置いてあるので、東京でのライブでは難しいですが、レコーディングではそのうち使うかもしれません。

♪ 弊誌も世界中の女性ベーシストにスポットをあてて注目しています。世の中でもダイバーシティや女性活躍推進が話題になっていますが、女性ベーシストとして世の中に伝えたいことはありますか？

『Battle Field』が全部リモートで録音されたのとは一転し、今回はほぼ全曲スタジオでバンド録音しています。いつもはこだわりを持ち、どんな音が欲しいか前もってしっかりイメージを固めて持っていくのですが、今回はできるだけ前もって決め“すぎ”ないように心がけ、レコーディングメンバーそれぞれが持っている個性を生かし、生の Jam 感を保つ方向で進めています。(ちなみに現在 8/28-30 絶賛レコーディング中なので、まだ録音終わっていません。)

女性ベーシスト、セクシーでとてもいいと思います。私もセクシーな女性が好きです。皆もそうでしょうか？

♪ 今後も米国を拠点に活動を続けていられる予定ですか？ 米国生活で苦勞していることはありますか？

自分の理想としては行ったり来たり、ちょうどいいポジションにいたいんです。アメリカに特にこだわりはなくて、ヨーロッパや南アメリカにも興味があります。同じ環境で同じことの繰り返しに苦勞なので、常にワクワクしています。

人生一度か二度かわからないですが歳をとってからは、できるだけ自己中に生きる努力をしています。アメリカにいる人々はとにかく自由な傾向にあるので、最初はそこに苦勞しましたが、今は学びとなりました。

♪ ジャンルに関わらず、今後共演してみたいアーティストはいますか？

プリンス (Prince) : 今世は諦めましたが、来世に期待。

ロバートの秋山 : 別に共演しなくていいのですが、ただファンなので 30 分くらい一緒にコーヒー飲んで世間話したい。

コリー・ウォン (Cory Wong) : 再来年かその次の年あたりのアルバムに彼をフィーチャリングした曲を入れたいと考えています。

♪ 音楽以外の趣味はありますか？

アメリカにいた時ダイエットのためにポールダンスを始めました。日本に帰ってくる直前に始めたのでほんの1ヶ月ほどしかできませんでしたが、今ポールダンスが恋しくて仕方ないです。恋しいというか、もう恋をした気がします。

おそらく世間一般的には性のイメージが強いポールダンスですが、私の感覚では完全なるスポーツであり芸術であり瞑想です。自分の家でもできるように近々ポールを買うと思います。



♪ 現時点の目標と将来の夢は？

現時点での目標はベースが上手くなること、将来の目標は好きなことだけして遊んで暮らすことです。

♪ Juna さんにとって“BASS”とは？

運命共同体、というか、他のことをやってる時の方がワクワクするのですが、なんだかんだで離れられない感じ。

♪ 最後に、「The Walker's」読者とファンに向けてメッセージをお願いします。

ライブ来てね♪

【Juna Serita Instagram】

<https://www.instagram.com/junaserita/>

【Muses official website】

[http://www.poppin.jp/muses\\_web/](http://www.poppin.jp/muses_web/)

芹田ジュナ初のインストゥルメンタルアルバム



『Battle Field』  
Juna Serita

2021.5.17 発売  
© 2021 Juna Serita  
¥2,445 (税込)

日本初本格ガールズフュージョンバンドの 1st



『Muses』  
Muses

2022.10.19 発売  
Poppin Records : DDCZ-2291  
¥3,300 (税込)